

令和8年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会

第1回幹事会 議事要旨

■日時:令和8年7月23日(木)13:30~15:30

■場所:新冠町レ・コード館 研修室 1(Web 会議システム併用)

■議事概要

1.開会(司会:北海道環境局国立公園課長 尼子)

2.議事

(1)日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約及び日高山脈襟裳十勝国立公園協議会登山道部会規約・名簿の変更について(報告)

・資料1(1)・資料1(2)について、事務局より説明。

<質疑等> ※→:事務局 ⇒資料提供者

→主な変更内容は、2026年7月1日の環境省設置法改正に伴う「北海道地方環境事務所」の「北海道環境局」への改組、並びに日高北部森林管理署及び北海道アイヌ協会の構成員の役職変更を反映したこと。これらは法改正や人事異動に伴う事務的な変更であるため、協議事項ではなく報告事項として取り扱うこととし、規約改正日は、改正環境省設置法施行日である7月1日付と整理したい。

(質問・意見等なし)

(2)令和7年度の各構成員の取組について

(3)令和8年度の各構成員の取組報告・予定について

・資料2・資料3について、事務局より説明。

→資料2・資料3の内容については、9月開催予定の協議会総会で各構成員から発言の時間を設ける予定。追加記載や修正する取組があれば、幹事会終了後に事務局へ連絡してほしい。

(質問・意見等なし)

(4)管理運営計画の改定(進め方)について

資料4(1)・(2)について、事務局より説明。

→管理運営計画は、昨年度策定したビジョンの実現に向け、取組方針、具体的な取組内容、役割分担等を定めるものである。今後の進め方は、次回幹事会までに骨子

案を作成し、今年度中に素案を取りまとめ、その後、関係機関協議や協議会総会での決定、パブリックコメントを経て計画変更となる予定。

→昨年度策定したビジョンを踏まえ、「保護」「利用」「協働型管理」の3つの柱ごとに、管理運営方針、取組方針及び具体的な取組方策案(たたき台)を行動計画骨子(たたき台)として作成した。これは事務局が議論のたたき台として作成したものであり、今後、幹事会において意見を集約しながら、具体的な取組内容や役割分担を充実させていくこととなる。

○資料4(1)にアジア航測株式会社の名称があるが、この資料は環境省が作成したものか、それともアジア航測株式会社が作成したものか。

→原案をアジア航測株式会社が作成し、事務局(北海道環境局国立公園課)で調整した上で、事務局資料として提示するものである。資料上に混乱を招く表記があり申し訳ない。

→資料4(2)について、管理運営計画(行動計画)の骨子案について、これらの内容は事務局によるたたき台であり、今後、協議会や幹事会において各構成員の意見や取組を反映しながら内容を充実させていく方針である。

○資料が前日に配付されたため十分な検討時間がない。今回の内容は「たたき台」として扱い、各構成員が意見や取組案を出し合ったうえで、第2回幹事会で骨子案を提示してほしい。

→今回示した取組方策はあくまで事務局による例示であり、この内容で確定するものではない。今後、各構成員が取組を持ち寄り、内容を充実させていくもの。構成員には、本日この場で、及び持ち帰って内部協議を行った上で、意見を提出していただく。提出方法や期限は後日事務局から連絡する。

→管理運営計画の取組方針は5年を目安に見直すこととなっているが、環境省の各種政策と揃えて2030年度までを目安とした取組方策や達成目標を整理することとしたい。なお、管理運営計画作成要領では、効果検証のための指標(KPI)の設定が求められていることから、取組の成果をどのように評価するかについてもあわせて検討する必要があるため、目標設定や評価指標に関する意見もいただきたい。

(5)日高山脈襟裳十勝国立公園協議会の今後の進め方について

資料5について、事務局より説明。

→今年度の総会は9月3日に開催予定で、昨年度の取組報告、今年度の取組予定及び今後の進め方について協議する。幹事会は、今年度中に計3回開催し、管理運営計画(行動計画)の作成に向けて、第2回で骨子案、第3回で素案を取りまとめる予定である。また、登山道部会では、夏山シーズンの状況や課題を共有し、協議することとしたい。なお、前回幹事会で説明した自然体験活動計画については、環境省において法定手続きを進め、公園計画への反映を準備している。

○登山者増加に伴い、水源地周辺のトイレ処理が課題になるのではないかと。体制の整備が万全ではなく、水源地の汚染が懸念されるため、対策を検討すべきではないか。

→重要な指摘として受け止める。登山道部会場で提案いただき、議論できればと思う。事務局でも今後の検討課題として記録しておく。

(6) 日高山脈を展望できる駐車帯等の整備について

・議事 6 について、平取町より説明。

⇒国立公園区域の多くは奥地にありアクセスが限られ、広域での活用の取組は難しい。だが、日高山脈は国道沿いなどで雄大な姿を望めることから、そのような場所をビュースポットとして活用することで、国立公園の魅力発信や利用促進につなげられないか。具体的には、シーニックバイウェイの取組と連携し、国の支援を受けながら駐車帯・展望スペース等を整備するようなことについて、総会で提案できると良いと考える。特に日高管内各町の御意見を伺いたい。

○提案された展望スペースや駐車帯整備は国立公園内なのか、それとも国立公園外なのか。

⇒想定しているのは主に国道沿いなどの国立公園外の展望地点である。

○国立公園外であれば、本協議会で扱うべきかの観点もあるが、たくさん車が来る場合の影響にも懸念はある。各町への提案というところ横から口を挟むようだが、具体的な場所・規模次第のように思う。

⇒国立公園内部はアクセスが難しいため、国立公園外から国立公園の核心部(日高山脈)を眺望できる場所を整備してはどうかという提案である。現時点では具体的な場所や規模を示す段階ではなく、まずはこうした方向性について意見を伺いたい。具体的なものは今後の検討次第となる。

→シーニックバイウェイによる展望地点整備とは、基本的に国道沿いの駐車帯やビュースポット整備をイメージしているのか。また、平取町にあるアイヌの文化的景観の視点場との関係について説明してほしい。

⇒国道沿いに駐車帯やビュースポットを整備し、日高山脈を眺望できる場所を作ることとを想定している。平取町にはポロシリ(幌尻岳)などを望める地点はあるが、現状は展望施設として整備されているわけではない。国立公園内部へ立ち入らなくても景観を楽しめる場所を整備することで、国立公園への理解促進や活用につなげたいという考えである。

→現段階では構想段階であり、この場で詳細な議論を進めるのは難しいので、今後、具体的なイメージを整理していただきたい。

→十勝シーニックバイウェイの事例(幕別町忠類のカフェ併設展望スポット等)が参考になるのではないかと。また、各自治体で行われている展望施設整備や、その際に活

用している補助制度などの事例も参考になるのではないか。平取町からは、各町に意見を聞きたいとの話があったが、各自治体間で情報交換をしていただけると良いのではないか。

→平取町からの提案の取扱いについては、平取町と事務局で協議する。

(7)その他各構成員からの報告事項

1)日高北部森林管理署管内の入林者名簿記載者数(日高北部森林管理署)

・資料 6(1)について日高北部森林管理署より説明

2)十勝西部森林管理署管内における入林者数の状況について(十勝西部森林管理署)

・資料 6(2)について十勝西部森林管理署より説明。

3)令和7年度シンポジウム「日高から考える持続可能な観光と地域づくり」概要(北海道開発局)

・資料 6(3)について北海道開発局より説明。

4)令和8年度日高山脈襟裳十勝国立公園における環境保全の仕組み構築に向けた検証事業について(北海道運輸局)

・資料 6(4)について北海道運輸局より説明。

5)良好な水環境の創出に向けたシンポジウムの開催について(北海道環境局)

・資料 6(5)について北海道環境局より説明。

(3)その他

○旧国定公園名の表記が残っている看板があれば、連絡を頂きたい。

○国立公園外だが、フンベの滝付近のメガソーラー工事が着工している。業者によればフンベの滝への影響はないとされているが、湧き水が出ている所であり、希少生物も生息している。自然に関する情報も環境省と広尾町で連携するなどして調査していただきたい。

⇒広尾町では、再生可能エネルギー発電施設と自然環境・景観の調和を目的とした条例が6月議会で可決された。本条例では、再生可能エネルギー発電施設と自然環境等の調和を図るため、メガソーラーなどの設置に関する禁止区域や抑制区域を定めており、2026年8月1日から施行される。

○日高町では、日高高校の生徒が考案したキャラクターを、町における日高山脈襟裳十勝国立公園のキャラクターとして採用し、クリアファイルを作成したので配布し

た。クリアファイルでは、Uni-Voice(ユニボイス)を採用し、日本語・英語・ヒンディー語・スペイン語の4言語でキャラクターや日高山脈の説明文を聞けるようにした。また、北戸蔦別岳のガイドマップを改訂し、耐水紙仕様にして再発行した。

○平取町振内で開催する、平取町山岳会主催の野村良太登頂記念報告会のチラシを配布した。

○本幹事会会場である新冠町のレ・コード館で、8月の8日間、環境省アクティブレンジャー写真展を開催する予定。

4.閉会